

## 第2学年英語科学習指導案

日 時	平成 27 年 11 月 19 日 (5 校時)		
学 級	金ケ崎町立金ケ崎中学校 2 年 1 組		
	男子 20 名	女子	19 名
授業者	教 諭	関 向	真 介
	講 師	中 村	い ず み
		(少人数指導)	

### 1. 単元名 My Project 2 将来の夢を語ろう ( SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 )

### 2. 単元について

#### (1) 教材について

My Project は、「4 技能の総合的な育成」と「4 技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成」に対応しており、それまでに学んだ言語材料を振り返り、統合的に活用することを通して、その言語材料の定着を図るとともに、生徒のコミュニケーション能力を高めることをねらいとした単元である。

本単元 My Project5 では、これまで学習してきた to 不定詞、動名詞、接続詞の when や if などを含む文を活用して自分の将来の夢について英語でスピーチ原稿を作り、発表する。また、モデル文として、プロゴルファーの石川遼選手の小学校 6 年生の時の作文が紹介されており、生徒自身が夢を語る時に活用できる表現に多く触れることができる。

#### (2) 生徒について

金ケ崎町は、文部科学省の教育課程特例校の指定を受け、小学校全学年で英語活動が行われている。町には 4 人の ALT が勤務し、幼稚園・保育園から中学校までの英語教育を支えている。そのような環境から英語に楽しく、良いイメージを持って中学に入学してくる生徒が多く、2 年生も 1 年生の時から、英語の授業に元気に、意欲的に取り組んでいる。今期は、生徒一人ひとりにできる限り英語を発信する機会を与えることや生徒とのコミュニケーションを深めることを目的として、少人数制の授業形態でスタートした。県の指定を受け、「発信力育成のための語彙指導」を研究テーマとし、特にコロケーションの指導に力を入れ、語句の使用をより意識させた練習に取り組むとともに、マイプロジェクト以外にも生徒が発信する場を計画的に設け、発表等にもチャレンジさせてきた。スピーチなど発表に取り組む時、最終的には何も見ないで発表することを目指して指導をしているが、暗記だけでなく、相手意識や伝わる表現にも注目させていきたい。また、発表を苦手とする生徒も多いので、ペアやグループで支え合って練習できる環境作りにも配慮が必要である。

#### (3) 指導について

「自分の将来の夢を語る」この単元は、単なるテーマスピーチではなく、1 年生で学んだ自己紹介をベースに、さらに内容をレベルアップさせ、「アマーストの中学生に金ケ崎の良さや自分の夢を伝える！！」という目標で取り組ませる。そうすることで生徒の意欲や発信力を高め、本校の CAN-DO の「身近なテーマについて、40～50 語程度でスピーチしたり、それに対しての質問などに答えることができる」力を生徒には身につけさせたい。

そのためには、まず、単元の最初に目標や評価の基準を生徒としっかり共有する。そして、実際にアマーストの生徒の紹介の映像を見せることで、生徒の目的意識や意欲を高めたい。また、普段から帯活動などで、マイプロジェクトにつながる表現や語句を生徒に意識的に繰り返して使わせるような活動を計画的におこなうことにより、スピーチ原稿を無理なく作成し、話す練習にスムーズに取り組みさせていきたい。

### 3. 単元の指導目標

- (1) 既習事項を用いて、自分の夢や金ヶ崎の紹介を含んだスピーチを発表することができる。
- (2) 聞き手を意識し、内容が伝わるよう表現を工夫してスピーチすることができる。
- (3) スピーチの構成を意識し、40～50語程度のまとまりのある文章を書くことができる。

### 4. 単元の評価基準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識
<p>①間違いを恐れず、友達と協力して言語活動に取り組んでいる。</p> <p>②相手が興味を持ってくれるよう、文の内容を工夫し、マップを用いて、英語で伝えようとする。</p>	<p>①聞き手を意識し、伝わるように表現や発音等を工夫してスピーチすることができる。</p> <p>②語句や文法事項の知識を活用し、相手に伝わる文章構成で紹介文を書くことができる。</p>	/	/

5. 指導と評価の計画（5時間）

時間	学習内容	評価	
		主な評価基準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の目標と評価の仕方を理解する。</li> <li>アマーストの生徒の紹介ビデオを見て、紹介イメージを共有する。</li> <li>モデルの自己紹介文を基に、紹介文の構成を理解する。</li> </ul>	ア-①	活動の観察
2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチに向けて相手を意識して、内容を厳選したキーワードマップを作成することができる。</li> <li>キーワードを基に、英文を考える。</li> </ul>	ア-①	活動の観察 ハンドアウト
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>マップを用いて、英文を話し、スピーチの練習をする。</li> <li>アドバイスし合い、構成や表現を吟味する。</li> </ul>	ア-②	活動の観察 個々のチェック
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終発表に向け、表現を工夫しながら仕上げる。</li> </ul>	イ-①	活動の観察 個々のチェック
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員の前で、適切な英語で紹介をすることができる。</li> </ul>	イ-①	個々の発表をチェック
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が話した文を正しく書く。</li> </ul>	イ-②	ハンドアウト

## 6. 本時の指導

### (1) 指導目標

キーワードを用いて、伝えたい内容を英語で話す練習をし、スピーチに向け効果的な表現を考える。

### (2) 指導構想

ウォーミングアップから生徒全員が考えながら、集中して取り組めるようにテンポよく活動を進め、学習する雰囲気を作りたい。また、その内容も単元目標につながる語彙練習等を取り入れ、授業の目標達成へつなげたい。豊富な口頭練習時間を確保し、できる限り机間巡視でチェックやアドバイスをやりたい。また、ペア・グループなどでの交流を行い、なるべく多くの人の中で発表練習をすることで、相手意識を高め、そこから自分も気づけなかった視点を気づかせ、スピーチの質を上げていき、発表までの意欲を高めたい。

### (3) 本時の評価基準

評価基準 (評価目標)	評価場面 (方法)	具体的評価基準		努力を要する 生徒への支援 (手だて)
		十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	
・相手が興味を持ってくれるよう、文の内容を工夫し、マップを用いて、英語で伝える (ア-②)	・個人・ペア 練習(観察) ・グループ 発表(観察)	・マップをもとにスピーチの練習をしながら、見ないで話せるようになっている。お互いにアドバイスしながらスピーチを工夫している。	・スピーチの練習をし、アドバイスを取り入れたりしながらスピーチを工夫している。	練習などに苦労している生徒にはできる限り個別指導を行い、支援する。  苦手な生徒には、事前のハンドアウト作業の指導をしっかり支援する。

(4) 本時の展開

段階 (時間)	指導内容	教師の指導 (○)・支援 (★)	評価方法・基準 (●) 指導上の留意点 (*)
導入	0. 英語の歌を歌う  1. Warm-up  2. 本時の課題を把握	★生徒の歌にアドバイスや声を出させるための支援等を行う  ○テンポよくカードを提示する ○ペアでの活動を指示する ○テーマを選ばせ、対話の指示を行う ★机間巡視をし、個別支援等行う  ○本時の目標を示す	*教師に注目させ、声を出し、きちんと発音するようにする  *ペアで協力するように促す
キーワードを用いて、伝えたい内容を英語で話す練習をし、スピーチに向け効果的な表現を考える			
展開	3. 個人練習①  4. グループ練習①  5. 個人練習②  6. グループ練習②	○マップだけでスピーチできることを目指して練習させる ★机間巡視で、個別支援を行う ★生徒の発音などのチェックを行う  ○互いにもっと良くなるためにはどうすべきなのかなどを出し合う指示をする ★机間巡視で、アドバイス等を行う  ○自分のスピーチをどうグレードアップするか考えて練習させる ★机間巡視で、アドバイス等を行う  ○自分たちのグループ以外で活動することで、練習の成果を試すことを伝える	*グループ隊形にする  *ペア・グループで協力するように促す
終末	7. 代表発表 (振り返り)  8. 宿題・次の時間の指示  9. Greeting	○代表生徒の評価を行う  ○宿題・次時の指示を行う  挨拶をする	*代表生徒の評価を通じて、全体での振り返りを行う  *元気の良い、気持ちの入った挨拶をできるように指導する